

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (北海道)	良く なっている	-	-	-
	やや良く なっている	商店街（代表者）	販売量の動き	・11月も一般消費が微増ながら前年を上回っている様子がみられる。また、今年は早めの降雪があったことで冬物商材も順調に動いている。プレミアム付商品券も順調に使用されているが、カード決済が前年を下回っており、プレミアム付商品券の効果の反動とみられる。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・来客数が徐々に増加している。特に食品部門でそうした動きが目立っている。
		スーパー（役員）	お客様の様子	・北海道新幹線の開業を控えて様々なイベントが増えており、人や物の動きが活発になってきた。
		コンビニ（店長）	来客数の動き	・11月の売上は前年比104%であった。商品の単品管理をきちんと行っているような店舗が売上を伸ばしてきている。
		その他専門店 【医薬品】（経営者）	お客様の様子	・悪天候の日が多かった割に来客数は悪くなかった。ただ、客の購買動向はシビアである。客自身が納得できて、コストパフォーマンスが良いと感じた商材であれば購入する傾向がみられる。
		その他専門店 【ガソリンスタンド】（経営者）	販売量の動き	・原油及び石油製品の価格下落に伴い、販売量が前年を上回っている。
		旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・第3四半期に入り、微増ではあるが、売上が前年を上回る状況が継続している。
		観光名所（従業員）	販売量の動き	・11月の利用乗降客数は運休を伴う工事や悪天候による運休があったため、単純に前年実績と比較できないが、売店とレストランの11月の売上を前年実績と比べると、25日時点で売店が前年比約120%、レストランが前年比130%と伸びており、8月以降、前年を上回る状況が続いている。
		美容室（経営者）	お客様の様子	・灯油やガソリンの価格が予想以上に安くなっているため、客がいつもよりも少しランクの高い商材を買い求める傾向がみられる。
		住宅販売会社（役員）	来客数の動き	・11月に入ってから、分譲マンションのモデルルームへの来客数が増加している。2017年に予定されている消費税増税を控えて少しずつ客が動き始めたようだ。
	変わらない	商店街（代表者）	お客様の様子	・商店街に閉塞感があることで来街者が減少している。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・客の様子は従来と変わりがないため、景気がそれほど上向いているようにみえない。
		一般小売店【土産】（経営者）	来客数の動き	・11月も外国人観光客の来客数が前年比150%と大きく伸びており、3か月前と比べて状況は大きく変わっていない。
		一般小売店【酒】（経営者）	販売量の動き	・当店の売上は観光関連によるものが大きな割合を占めているが、11月はこれまで売上をけん引していたホテルの売上が特に悪かった。例年、ホテル関連の厳しい時期ではあるが、今年は急にプレーキがかかったようであり、落ち込みが目立った。
		百貨店（売場主任）	来客数の動き	・ほぼ前年並みで推移していた来客数の動きが鈍化した。また、外国人観光客による売上は前年比115%と2けたの増加を維持しているものの、減少傾向にある。また、新たに提案を始めた商材は即効性が弱く、関連部門への顧客動員も減少気味である。
		百貨店（担当者）	来客数の動き	・客単価は変わらないものの、来客数が減少したままである。
		コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・生鮮品の売上は維持できているが、たばこやアルコールなどの免許品の売上の減少が継続している。企業の残業抑制が影響しているのか、客単価の高い遅い時間帯の来客数が減少している。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・店舗の来客数が回復してこない。
	コンビニ（オーナー）	来客数の動き	・外国人観光客は安定しているが、景気自体はあまり良くない。	
	衣料品専門店（店長）	販売量の動き	・販売量、来客数ともに直近3か月で減少している。客1人当たりの買上点数も減少しており、特に衣料に関しては必要以上に購入していない様子がうかがえる。	

	衣料品専門店 (店員)	単価の動き	・単価の高い商材の動きが悪い。
	家電量販店(店員)	来客数の動き	・11月後半から、来客数、売上とも減少しており、12月の売出しまで買うのを待とうとしている様子がうかがえる。
	乗用車販売店 (従業員)	販売量の動き	・一部の車種が新型になったことで販売量が上向いているが、決して市況がそれほど良くなっているわけではない。
	乗用車販売店 (従業員)	販売量の動き	・個人的には景気に左右されることもなく、販売台数も伸びているが、周りを見ると、正直言って厳しい状況であり、業界を取り巻く景気としては変わらない、又は下向き気味にある。
	乗用車販売店 (従業員)	販売量の動き	・新型車が発表されたこともあり、新車の販売量は上向いているが、中古車の販売量が予算未達で終わっている。
	乗用車販売店 (役員)	販売量の動き	・新車、中古車ともに販売量が一方向に上向いてこない。市況も他地区と比べて悪く、改善される様子がみられない。
	自動車備品販売店(店長)	競争相手の様子	・11月末まで雪が降らなかったため、冬タイヤの販売量が前年の70%台になってしまった。また、冬用品の販売量も落ち込んでおり、買換えを先延ばししている傾向がうかがえる。
	高級レストラン (スタッフ)	販売量の動き	・穏やかな天候に恵まれたこともあり、昼の売上は比較的良かったが、月後半に連休があったためか、夜の売上が悪く、全体としては前年並みであった。知り合いの店では、調理スタッフを募集しているが、高給にもかかわらず、長期間応募がなく、業務に支障が出ている。10月末のハロウィンの人出は飲食店にも恩恵があり、歓迎しているが、一方で過剰な仮装した客や酔い客が来店することで迷惑している店も増えているようだ。
	観光型ホテル (スタッフ)	来客数の動き	・外国人観光客については、ASEAN諸国からの観光目的の来客が堅調であった。また、イベントやスポーツ大会関連での宿泊需要もプラスに作用した。その一方で、国内からの個人旅行客向けの商材が低調であった。
	タクシー運転手	来客数の動き	・10月は天候が悪かったため、タクシーの利用が多く、売上も前年を上回ったが、11月は月末に雪が降るまで、前年を大きく下回って推移した。ただ、月末の天候が悪かったこともあり、月全体ではほぼ前年並みの売上となった。
	タクシー運転手	来客数の動き	・売上は前年比で若干のプラスだったが、2~3か月前と比べて目立って良い状況になってきたとまでは言えない。
	通信会社(社員)	お客様の様子	・イベント開催時の来客数が少なく、売上や成約数も減少傾向であった。今年1年を振り返ってみても景気が上向いていると実感することが少ない状況にある。
	美容室(経営者)	単価の動き	・季節的な要因で売上は減少しているが、客単価はそれほど変わっていない。
	美容室(経営者)	来客数の動き	・売上が伸びた商材もあったが、下がった商材もあったため、全体で見るとあまり変化がみられない。
	住宅販売会社 (経営者)	お客様の様子	・住宅建築は前年の消費税増税後の回復の動きがみられないまま推移しており、全体的にあまり景気の良くない状況にある。
やや悪くなっている	商店街(代表者)	単価の動き	・4月以降、客単価が前年よりも上がってきていたが、9月以降は前年よりも5%ほど下がっており、11月も同様の状況が続いている。
	商店街(代表者)	来客数の動き	・11月中旬までは悪いながらも、来街者はほぼ例年並みで推移していたが、23~25日にかけての大雪の影響により、11月下旬の来街者が大きく減少した。また、月末に実施した当商店街と地元百貨店との共同主催によるクリスマスイベントも大雪の影響からか、例年の半分程度の参加者にとどまった。例年であれば、月末にかけて売上を伸ばす時期であるが、物販の売上は予想外に落ち込んだ。
	商店街(代表者)	来客数の動き	・例年、11月は来客数が少なくなるため、3か月前と比べるとやや悪くなっている。ただ、今年は予想を上回るような来客数がみられたほか、激安ツアーの利用客も少なかったため、比較的高価な商材が売れた。

一般小売店〔土産〕（経営者）	お客様の様子	・11月の売上は前年比で105.2%、前々年比で102.2%とまずまずの数字であったが、外国人観光客に助けられた部分大きい。一方、納入業者の値上げ攻勢に加えて、若い女性の短期離職に伴う人件費の増大と期待にこたえられる社員の確保ができなかったことなどが経営を苦しめている。	
百貨店（販売促進担当）	お客様の様子	・来客数の微減が続いている。また、客単価は上がっているものの、買上率の低下が続いており、売上全体が下がってきている。電気料金の値上がりに伴う冬の暖房費高騰に備えて、客の買い控えが続いている。	
百貨店（販売促進担当）	来客数の動き	・店舗前の歩道工事の影響も少なからずあるものの、来客数が大幅に減少している。競合店出店以降、客の流れが変化しており、競合店の対面に当たる出入口からの来客数が増加している一方で、反対側にある出入口からの来客数が減少している。	
スーパー（店長）	販売量の動き	・売上、来客数ともに前年から5%減少している。また、販売点数は前年比92%と前年を大きく下回った。	
スーパー（役員）	来客数の動き	・当地区は人口減少に加えて、大型店出店に伴う顧客の分散もあり、特に景気が悪化している。商品単価の上昇に伴い客単価は上昇しているが、来客数は前月と比べて1.5%減少している。	
コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・海岸沿いの地区では一部の地区を除き、魚の不漁が続いていることもあり、来客数の減少が目立っている。内陸部では競合店の出店が続く、客の分散が進んでいる。たばこ、アルコールなどの免許品の売上の減少幅も大きい。	
衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・同業者の廃業に伴う閉店セールや例年より早い暴風雪の影響により、売出し初日の状況が非常に悪く、前年を大きく下回った。空き店舗ビルの解体工事があちこちで行われ、雪で道が悪かったこともあり、消費者や観光客がメインストリートを歩く姿も少なかった。	
衣料品専門店（店長）	お客様の様子	・暖冬の影響もあるが、冬物のスーツやコートなど、例年であれば稼働が最大になるはずの商材が低調に推移しており、客の買い控えが強く感じられる月であった。	
高級レストラン（スタッフ）	単価の動き	・日中の来客は1～2名の観光客やビジネスマンのほか、年配の夫婦が目立つ。夜は客単価の上昇につながるようなコース料理の注文が少なく、売上としては厳しい状況にあった。時間帯によっては外国人が半数を占める時間もあった。全体の売上は前年並みにとどまった。	
高級レストラン（スタッフ）	お客様の様子	・企業の景気鈍化に伴い、客の購買意欲も減退している。	
観光型ホテル（役員）	単価の動き	・外国人観光客、国内客ともに宿泊料金が下落している。	
旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・10月の荒天に伴う農業被害及び一部地区の漁獲不振などのマイナス要素があるため、消費者のマインドが低下している。さらに、11月後半に早くも降雪の影響による欠航が発生しており、航空需要への影響が懸念される。	
旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・パリでの同時多発テロを受けて、海外旅行を中止する客が出始めた。	
タクシー運転手	販売量の動き	・やや回復傾向がみられるが、前年比での落ち込みが継続している。	
タクシー運転手	販売量の動き	・11月に入り、観光客が減少しており、地元客の注文も減っている。3か月前と比較しても売上が約10%落ちている。	
タクシー運転手	販売量の動き	・雪が遅かったため、タクシー利用者が減少し、売上が減少している。また、夜の飲食街への人出が少ないことも売上減少の一因となっている。	
タクシー運転手	販売量の動き	・11月末の降雪の影響でやや売上が回復したものの、全体的にはやや悪い状況となっている。	
その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	来客数の動き	・急激に冬型の気圧配置が強まったことで欠航が相次いだ。また、工事関連の輸送が季節とともに減少している。	
悪くなっている	百貨店（売場主任）	来客数の動き	・11月下旬に大雪が2度あったことで来客数が減少した。商材別にみると、特にお歳暮の動きが悪いほか、婦人者が苦戦しており、婦人服のコートなどは前年比70%にとどまった。

		通信会社（企画担当）	販売量の動き	・売上増加を目指した付加サービスが過剰になりすぎたことで客から不評を買い、札幌郊外と道東を中心に販売量が大きく低下した。
企業動向関連	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	-	-	-
(北海道)	変わらない	食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・販売額に特に変化がみられない。
		建設業（従業員）	受注量や販売量の動き	・受注量が確保されており、職員の稼働率も依然として高い状況にある。
		輸送業（営業担当）	取引先の様子	・紙及び板紙の国内出荷量が相変わらず低調であり、紙類の道外向け輸送が19か月連続で減少している。一方、農産物の道外向け輸送は好調に推移している。
		金融業（企画担当）	それ以外	・外国人観光客は前年を大幅に上回っている。札幌市内のホテルは9割以上の稼働率で、宿泊料金も1泊1万円を超え、千歳や小樽などの近郊まで客が流れている。設備投資は多くの企業が慎重な姿勢であるが、ホテルの新設・改装、医療福祉施設の新設などが全体を押し上げている。道内経済でウエイトの大きな建設土木は公共工事の減少で低迷している。
		司法書士	取引先の様子	・土地取引や建物の建築において、若干の伸びがみられるが、一時的な動きとみられ、特に景気が良くなっているということではない。
		司法書士	取引先の様子	・土地の売買、建物の新增改築工事が例年よりも少ないままである。
		司法書士	取引先の様子	・一般住宅やマンションの建設に活況感がない。マンションのくい打ちに関する施工データ改ざん問題の影響が大きく、中古物件の販売にも影響が及んでいる。
		コピーサービス業（従業員）	取引先の様子	・取引先の様子をみると、来年に向けての設備投資を抑え気味である。マイナンバーへの対応が本格化してきているなかで、突発的な投資が生じることを懸念しているようである。
		その他サービス業〔建設機械リース〕（営業担当）	受注量や販売量の動き	・春に発注されたゼロ国債による工事が少しだけで、その後の受注量が増加していないため、前年から1割以上減少している。
		その他サービス業〔建設機械リース〕（支店長）	受注量や販売量の動き	・各種補助金と関連しての設備投資はみられるが、そのほかの設備投資は依然として低位のまま推移している。
	やや悪くなっている	家具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・首都圏及び大企業を中心とした過熱気味の需要が沈静化しつつある。
		建設業（従業員）	受注価格や販売価格の動き	・建設業の端境期に差しかかり、仕事量と職人の数の均衡が取れてきたこともあり、特に鉄筋、型枠、鉄骨などの工事の単価が低下傾向となってきている。
		輸送業（支店長）	受注量や販売量の動き	・例年であれば、年末商戦に向けて輸送量が増加する時期であるが、今年はそうした動きがみられない。いつもの年であれば、11月はトラックが足りなくなり、ひっ迫する傾向にあるが、今年は今のところ平穏な状況で推移している。
		通信業（営業担当）	取引先の様子	・ここしばらくの取引先の様子としては、景況感に関して楽観的な意見が大勢を占めていたが、直近になり、やや悪くなったとの意見を示す取引先が多数となってきた。
		その他サービス業〔建設機械レンタル〕（総務担当）	受注量や販売量の動き	・売上が前年を下回る状態が続いている。
		その他非製造業〔鋼材卸売〕（役員）	受注量や販売量の動き	・客先の仕事量が減少しており、一部の鉄骨加工業を除けば、消耗資材の販売額が前年から約5%減少している。
	悪くなっている	-	-	-
雇用関連	良くなっている	-	-	-
(北海道)	やや良くなっている	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・派遣のニーズは引き続き増えている。また、経理、営業などの求人も増えているが、物流量の増加に伴うドライバーの求人や、外国人観光客の増加に関連したホテルのベッドメイクの求人、外食産業でのフロアスタッフなどの求人も急増している。

	職業安定所（職員）	求人数の動き	・月間有効求人数が69か月連続で前年を上回り、月間有効求職者数が48か月連続で前年を下回った。さらに新規高等学校卒業者の管内の求人数が前年と比べて18.8%増加した。
変わらない	求人情報誌製作会社（編集者）	雇用形態の様子	・人材不足も手伝ってか、全体の求人数に占める人材派遣の割合が前年と比べて上昇している。
	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・求人数は増えているものの、採用につながるケースが少なく、景気が回復しているようにみえない。
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・求人広告売上の上位職種は不動だが、職種によって明暗を分けた。派遣、飲食、不動産が前年から3割の増加と大きく伸びた一方で、医療、小売が前年から3割の減少、環境衛生が前年から半減するなど、メリハリのある状態となっている。全体としては前年から微減となり、これまでの大幅な減少傾向からはいったん抜け出せた。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・長期にわたる公共事業の減少により、建設業の求人に弱さがみられる。
	職業安定所（職員）	求職者数の動き	・新規求職者数の3か月累計をみると、前年比で4.6%減少しており、有効求職者数も前年比で9.2%減少している。有効求人倍率は過去最高の0.98倍となったが、職種間のミスマッチが依然として解消されていない。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・月間有効求人数は前年から3.2%増加し、3か月連続で前年を上回ったが、新規求人数は前年から0.6%の減少となり、3か月ぶりに減少に転じた。
やや悪くなっている	求人情報誌製作会社（編集者）	採用者数の動き	・小売業やサービス業などで大手企業による寡占化が進んでおり、全国チェーンの店舗からの求人はおう盛である。地元の求人は外国人観光客関連の業界は元気があるが、そのほかの業界は思ったような人材が採れる状況ではないため、様子見状態となっている。
悪くなっている	-	-	-